

科目ナンバリング		U-LAS23 10001 SJ48								
授業科目名 <英訳>	中国語 I A (文法) C1101,C1102,C1103, C1104,C1105,C1106,C1107,C1108,C1109, C1110,C1111,C1112,C1113,C1114,C1115, C1116,C1117,C1118,C1119,C1120,C1121, C1122,C1123,C1124,C1125,C1126,C1127 Primary Chinese A				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 文学研究科 国際高等教育院 文学研究科			非常勤講師 林 淑美 非常勤講師 南 真理 教授 松江 崇 准教授 成田 健太郎 非常勤講師 山田 晃三 非常勤講師 黄 明月 非常勤講師 山本 浩史 非常勤講師 鈴木 博之 非常勤講師 大賀 晶子 准教授 劉 愛群 非常勤講師 加部 勇一郎 非常勤講師 前田 尚香 非常勤講師 小出 敦 非常勤講師 中原 理恵 非常勤講師 上原 尉暢 教授 緑川 英樹
	群	外国語科目群		分野(分類)		使用言語		日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)			
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	月2/月3/月4/火3/火5/ 水3/水4/木1/木2/木3/ 木4/金2/金3/金4/金5		配当学年	全回生	対象学生	全学向	
【授業の概要・目的】										
本授業は、初めて中国語を学ぶ学生を対象にしたものであり、簡単なスキットと初歩的な文法事項を段階的に学びながら、読む、書く、聞く、話すといった能力を身につけてゆく。この授業では特に文法的知識の習得を目指し、演習の授業と連携したかたちで、授業をすすめる。										
【到達目標】										
中国語の発音体系を身につけた上で、中国語の基礎的な文法事項を理解し、中国語による表現の基礎を身につける。北京を舞台としたスキットを題材としつつ、広く中国の文化に対する理解を深める。										
【授業計画と内容】										
この講義はフィードバック(方法は別途連絡する)を含む全15回で行う。 最初の3回の授業では、テキストの「発音編」に基づきながら、中国語の表音システムであるピンイン(ローマ字綴り)の学習を通じて中国語の発音体系のあらましを習得する。 その後、テキストの「本文編」に基づきながら、スキットと文法事項ごとの例文の学習を通して、正確な文法的知識、基本的な表現力の習得を目指す。前期は発音編と本文編第九課までを学びながら、特に、文法体系の枠組みを理解することをめざす。原則として1回の授業で本文編の1課分を学習する。なお、Web上にも教材の音声を置き、履修生には24時間自由なアクセスを認め、その自学自習を支援する。 本授業は、所定の演習の授業と連携して行われるため、かならずセットで履修しなければならない。この授業だけの履修は原則として認められない。各回において学ぶ内容(発音事項・文法事項)は次のようである。										
第1回 発音編「中国語の音節構造」「声調」「韻母 その一 単母音」「声母 その一」										

- 第2回 発音編 「韻母 その二 複合母音」 「声母 その二」 「韻母 その三 鼻音を伴う母音」 「第3声の発音」
- 第3回 発音編 「簡単なフレーズ」 「声調変化」 「軽声」 「儿化」
- 第4回 第一課、 「人称代詞」 「動詞述語文」
- 第5回 第二課、 「判断動詞 “是” “不是”」 「連体修飾Ⅰ」 「副詞 “也” “都”」
- 第6回 第三課、 「形容詞述語文」 「指示代詞」 「動詞 “在”」
- 第7回 第四課、 「疑問代詞 “shenme”」 「助動詞 “想” など」 「副詞 “就”」 「動詞 “有”」
- 第8回 第五課、 「連動文」 「時間詞Ⅰ」 「文末の語気助詞」 「連体修飾Ⅱ」
- 第9回 第六課、 「選択疑問文」 「比較表現」 「介詞」 「疑問代詞 “weishenme” “zenme”」
- 第10回 第七課、 「連体修飾Ⅲ」 「進行表現」 「“xihuan” + 動詞 / 名詞」
- 第11回 第八課（前半）、 「主述構造を目的語とする動詞」 「“dui...ganxingqu”」
- 第12回 第八課（後半）、 「副詞 “yizhi” など」 「二重目的語」
- 第13回 第九課（前半）、 「時間詞Ⅱ」 「さまざまな “le”」
- 第14回 第九課（後半）、 「アスペクト助詞 “guo”」 「動詞 + “一下”」
- 《期末テスト》
- 第15回 フィードバック

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

原則として定期試験80%、平常点20%で評価する。詳細については授業の最初の時間に説明する。基本的な語彙・文法事項の理解と、それを用いた表現能力の修得が評価の対象となる。

[教科書]

道坂昭廣 他 『中国語の世界 北京・2023 』（大地社）

[参考書等]

（参考書）

詳細な学習方法や、辞書及び参考書については、最初の授業や授業の中で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

Web上に教材や練習問題の音声を置く。24時間自由にアクセスできるので、必ず授業の前に、音声を聞くとともに文法事項について目を通しておくこと。また、練習問題が宿題となることもある。必ず復習とともに練習問題等の課題を行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

最初の授業において紹介する。